

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	0170400881		
法人名	有限会社 ユースフル		
事業所名	グループホーム 星の家		
所在地	札幌市手稲区稲穂1条7丁目8番18号 (電話) 011-688-0107		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年4月11日

【情報提供票より】 (平成20年2月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 7月 25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14人, 非常勤3人, 常勤換算	11.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	～1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 20,000円
敷金	有 (円)	無	11～5月暖房費14,000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 130 円
	または1日当たり 1,330 円		

(4) 利用者の概要 (2月14日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	1名	要介護2	7名
要介護3	1名	要介護4	4名
要介護5	5名	要支援2	1名
年齢	平均 82歳	最低 61歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	星置駅前内科医院 遠藤内科医院 ラビット歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利便性の高い郊外にある静かな環境で地域のボランティアも積極的に受け入れ、多種多様な楽しみを持って暮らせるホームである。利用者の尊厳を第一に考え、希望に合わせた生活ができるよう日々のケアでは管理者や職員の姿勢や思いが感じ取れるホームである。現在もターミナルの利用者のケアが進められており、利用者と職員が家族のように安心して助け合って生活をしている場面が多く見られる。職員の間関係も良好であり、管理者や職員はケアサービスの向上に非常に熱心で、利用者と同じ目線での会話を心掛け、人生の大先輩として敬っている。利用者も職員を信頼し、伸び伸びと生活しており、ともに過ごし支え合う関係を築いている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題は、事故報告の活用であるが、今回はヒヤリハットと事故報告も統一されわかりやすく変更され、課題であった事故内容が一目でわかるように改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価にあたっては、各ユニットの職員休憩所に置いて全職員が目を通し報告書に記入したものを各リーダーや管理者が集約し、作成されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	過去4回の運営推進会議は定期的開催されたが、次回の運営推進会議まで半年ほど開催の予定がなかったため、迅速に次期の計画を遂行できる準備が必要である。積極的に運営推進会議を利用して地域で支え、地域に開かれたサービスとして質の向上を目指して進めて行くよう期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	頻繁に来訪する家族へは日々の暮らしや心身の状況を伝えているが、来訪頻度の少ない家族へもホーム側から利用者の家族へ一人ひとりの状況に応じた定期的な報告が必要である。今後はどの家族の方へも定期的な情報提供が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	子供110番の指定になっており近隣からの介護や福祉に関する相談やボランティアの来訪も多い。今後も継続して地域との連携を図って行くことを期待する。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時からのホーム独自の理念に地域に愛され信頼されることを掲げている。職員も理念にあるように地域住民と良い関係を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各階ともに見やすい場所に掲示されており、管理者は、職員と理念を共有し、入居者の尊厳を大切にすることを第一に考え日々のケアに当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子供110番の指定を受け、町内の花壇の手入れや清掃活動に職員や利用者とともに積極的に参加している。近隣のボランティアの来訪もあり、今後も多方面にわたる交流を計画中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の改善課題は全職員で話し合いがもたれ改善への取り組みが行なわれている。今回の自己評価の作成も職員の意見を管理者が集約し作成されている。		

札幌市手稲区 グループホーム 星の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去4回3ヵ月ごとに運営推進会議が開催され、運営状況や活動内容などが報告されているが、最近では開催されていない。	○	運営推進会議を活かして、地域密着型サービス事業者としてホームの質の向上を目指し、地域と連携し地域に密着した運営を進めて行くよう期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の管理者会議に出席しているほか、高齢福祉課などに電話で情報交換やアドバイスなどを得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には日々の暮らしぶりや心身の状況を伝え、来訪できない家族には受診後の結果に変化があった場合には電話で伝えているが、職員の移動や暮らしぶりなどの「ホーム便り」は定期的には送られていない。	○	家族の状況に合わせた個別の報告が望まれる。ホーム内での暮らしぶりやエピソード、健康状態など家族が知りたい点を考慮しながら、一人ひとりに応じた情報提供を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には気軽に意見や要望を話せるような雰囲気作りに努めている。また、家族会があるため迅速に話し合いが持たれケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職した職員も来訪することがあるため、離職時は利用者への説明方法を工夫するなど、利用者へのダメージ防ぐ配慮がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはできる範囲で出席しているが、年に2度ほどである。研修後の記録がなく、共有化を図る組織的な取り組みが定着していない。	○	人材育成の重要性を認識し、外部への研修参加や内部研修の機会が必要であるため、事業所として職員一人ひとりの知識や経験に応じた研修に参加できる場を確保し、研修内容の職員間での共有化を図る運営体制作りを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議に参加し、ほかのグループホーム関係者と接触しながら情報収集や意見交換を行っている。また、地区のグループホームへ相互訪問し、交換ボランティアとして一日を通してホームで実習をしてきたり、お互いのホームのサービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者や家族と十分に面談を行ないホームの見学をしてもらい雰囲気に馴染んでからの入居となっている。利用者や家族が安心して納得できるよう適切なサービス開始の調整を行っている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者や家族からの情報で、利用者が活躍できる場面づくりの支援が行なわれている。また、生活の知恵など利用者から教えてもらう場合も多々あり、ともに支え合う関係づくりが築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の小さなサインを見逃さず、日々の言動や表情から思いや願いを汲み取り、共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見を取り入れ職員間のカンファレンスで職員が意見を出し合いながら介護計画が作成されている。作成されたプランで日常のケアに活かせる取り組みが行なわれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全利用者とも基本は3ヵ月に1度の見直しを行ない、利用者の状態に変化が生じた場合、本人・家族と話し合いし掛り付け医とも相談しながら現状に即した見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の掛り付け医への通院介助や、個別の買物付き添い、利用者の家族の宿泊など、柔軟な支援が実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛り付け医での受診支援や協力医療機関による隔週の往診などの受診支援が行なわれている。毎年の健やか検診も受診しており、歯科医師の往診も行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等並びにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在も重度化した利用者を抱えており既にホームとして適切な対応が実践されている。重度化に関する指針を作成しており、同意書が整備されている。今後も家族や利用者の意向を尊重しながら対処する予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りや羞恥心に配慮しながら日々のケアを行なっている。トイレという言葉に敏感な利用者へはトイレ誘導の際は、「鞆を取りに行きますか」、「銀行へ行きませんか」など、特定の利用者だけにわかる言葉に代えて、さりげない対応に心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴、体調やペースで生活を送れるよう支援している。書道や趣味など自分の好きなことで楽しく過ごせるよう工夫・支援をしている。		

札幌市手稲区 グループホーム 星の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と同じ席に着き食事を取りながらサポートをしている。食事の準備や後片付けは職員の見守りで楽しみながらできること、やりたいことができるよう支援している。テレビの料理番組で美味しそうなものがあれば入居者のリクエストで献立に入れるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日が決まっており交代で入浴しているが、決められた日時以外でも希望があれば入浴でき、一人ひとりの状況に合わせた対応もなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味を活かせるように支援されており、食器拭きや洗濯物干し、花壇の手入れや水遣りなど生活歴を活かした役割や楽しみごとで喜びを見い出せるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、通院への付き添いなどの外出支援を行なっている。冬期間でも外食をするための外出ができるよう利用者へも希望を聞きながら出掛けられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵を掛けない安全な暮らしについて理解しており、日中は施錠していない。上下間のユニットの出入りは自由であり、職員は、外出傾向のある利用者を把握しており、外出する様子の時には、さりげない声掛けや見守りが行なわれている。		

札幌市手稲区 グループホーム 星の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ての消防設備の点検は行なわれているが、火災や災害時を想定した入居者を伴っての避難訓練は実施していない。	○	職員が少ない夜間帯は地域住民の協力が不可欠であるため、普段から地域の理解と協力を得るなど、火災や災害時を想定した避難訓練の実施で不測の事態を回避する努力が必要である。また利用者の家族へはホームの緊急避難場所を家族に通知するよう期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好や状態に応じて調理方法も工夫がされている。管理者が基礎栄養学を習得しカロリー成分表で確認し大まかな摂取カロリーを把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は明るく、季節を感じることのできる飾り付けが行なわれ利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。気になる臭いもなく、音・光なども適宜調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者本人が使い慣れた馴染みの家具や装飾を持ち込み、我家というイメージで家庭の延長的雰囲気の中で、清潔で安心して暮らせる場所となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。